

ワンちゃん・ネコちゃんの
オーナーさんのための



傾聴 けいちょうしゅう 飼育



のススメ

今よりもっと、幸せな関係に！

飼育から傾聴飼育へ

こんにちは、獣医師の藤井仁美です。

犬や猫は、それぞれ人とは異なる習性があり、言葉を読まない代わりに行動やしぐさ、表情で気持ちを表していることをご存じですか？
じつはとても雄弁で、日々私たちにいろいろなことを伝えてくれているのです。

飼い主さんが、彼らが発するサインをよく観察し
その本当の意味を理解しながら接していくことで、信頼関係はより深まっていきます。

聴き上手な飼い主さんになって
互いに幸せな日々を過ごしていきましょう。



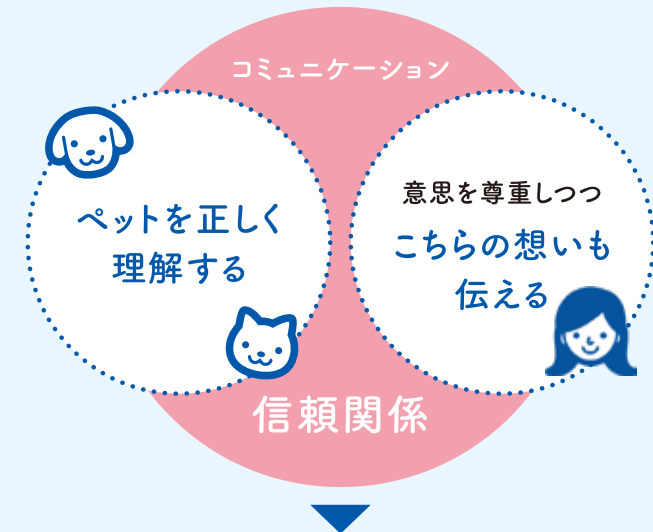
藤井仁美 先生

獣医師 獣医行動診療科認定医 伴侶動物行動カウンセラー
日本獣医動物行動学会副会長 ベックジャパン動物病院グループ行動診療科専科長

東京農工大学農学部獣医学科卒業。動物病院勤務を経て、英サウサンプトン大学大学院にて動物行動学を学ぶ。現在はベックジャパン動物病院グループにて、犬と猫の行動診療やストレスケアなどに携わり、動物の心身両方の健康や幸福の推進、および飼い主の幸福増進を目指している。

「おもい」が通じ合う暮らし 傾聴飼育

傾聴飼育とは、動物の発するサインを観察し、その本当の意味を理解しながら飼育すること



ワンちゃん・ネコちゃんと人の共生社会へ

傾聴飼育のポイント

POINT 1



生態・習性・
行動特性を学ぶ

POINT 2



表情・姿勢・
行動を観察して
サインを読み取る

POINT 3



サインの意味を
考えて接する



まず、知っておきたい！

傾聴飼育のポイント *for dogs*

POINT 1 | 習性や行動特性を学ぶ

世界には700～800の犬種が存在するといわれており、もともとの役割や従事していた仕事によって性質が異なります。適した付き合い方をするためには、犬種のルーツや特徴を知ることが重要になります。



獣猟犬は動くものをつかまえた欲望が強く、愛玩犬は甘え上手、牧羊犬は自己判断力に優れ運動能力も高いなど、ルーツによって犬種ごとに異なる性質を持っています

POINT 2 | サインを読み取る

群れのなかで仲間との意思疎通を必要としてきたワンちゃんは、行動や鳴き声のほか、耳や目、口元、しっぽ、さらに姿勢にもよく感情が表れます。パーツに加え、体全体を見るようにしましょう。



耳を上げたりしっぽを振ったり、同じように見えるサインでも、期待や警戒など感情は異なることも。正しく理解するためには、置かれている状況と照らし合わせることも大切です

POINT 3 | サインの意味を考えて接する

自分の気持ちをどう表現するか、どれだけ表現できるかは、ワンちゃんの年齢や性格などによって、個々に異なります。よく見て、心の声に耳を傾け、抑圧ではなく満たし導くような接し方をしていきましょう。



社会性が高いワンちゃんは、良くも悪くもオーナーさんに大きく影響を受けます。イライラや怒りによる抑圧は、ワンちゃんに不安や恐怖心、ときに反発心をも生じさせてしまいます

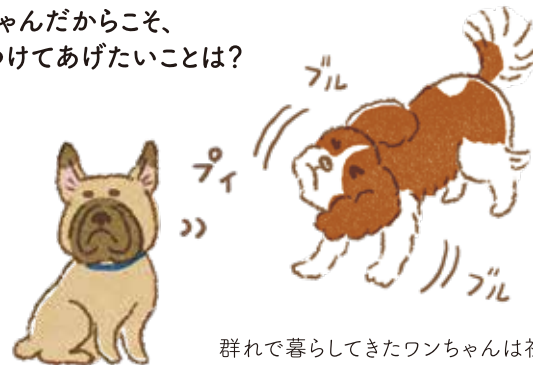
Q & A でよくわかる！



傾聴飼育 *for dogs*

Q ワンちゃんだからこそ、
気をつけてあげたいことは？

「かわかりたくない」「交流を終わりにしたい」という気持ちは、顔をそむけたり目を合わせずに地面のニオイをかいたり、体をブルブルしたりする行動に表れます



A 意外と陥りがちなのが、
かまいすぎ

群れで暮らしてきたワンちゃんは社会性が高く、オーナーさんとの交流が大切です。その一方で、かまいすぎはワンちゃんにとってストレスとなることも。また、抱っこやなでるといった習慣は人側の愛情表現であり、必ずしもすべてのワンちゃんが好きとは限りません。「かまってほしくない」サインが見られたら、そっとしておいてあげましょう。

Q 止まらない破壊行為、
どうしたらやめさせられる？

A まずは、満たしてあげる
ことから



リモコンやクッションなどの破壊行為や、突然の猛ダッシュ、自分のしっぽを追ってグルグル回る行動などは、犬が満たされない状態であることを表していることも

社会性を大切にするワンちゃんは、オーナーさんとかかわりやふれあい、また十分な運動によって満たされる傾向が強いです。問題行動は、それらが足りていないことによるストレスが原因となっていることも。破壊行為はワンちゃんの欲求不満のサインのひとつ。暮らしを振り返り、運動や遊びなどで、まずは愛犬を満たしてあげることが大切です。

Q ワンちゃんにしてほしくないことには、
どう対応する？

靴をくわえて見せにくるなどのしてほしくない行動が習慣化しているのは、「これをする」と反応してくれる」という学習がワンちゃんにあったから



A 見て見ぬふり、
知らないふりが
大切なことも
あります

救急車の音への遠吠えや、靴をくわえてオーナーさんに見せにくるなどの行動は、仲間への伝達や期待からくる行動です。相手あつての行動なので、オーナーさんは見て見ぬふり、「無視」をしましょう。ここでの無視はひとつのコミュニケーション。問題行動の抑止となり、「相手の気を引けない」とワンちゃんが学習すれば、自然としなくなっていくます。

Q ワンちゃんにも、ワンちゃんのともだちをつくってあげたほうがいい？

A オーナーさんとの関係を
いちばんに考えましょう

犬種別の行動特性や個々の性格などによって、ワンちゃんにも気が合う・合わないがあります。大切なのはオーナーさんとの関係でワンちゃんが満たされていることであり、無理をさせてまでもだちをつくる必要はありません。そのうえで、愛犬と、相手のワンちゃんのこともよく観察し、関係が対等に見えるときは、あいさつをさせてみることから始めていきましょう。



興味津々で情報収集をしたいとき、相手のお尻のニオイをかぎたがります。一方、相手に不安や怖さを感じているときは、耳が後ろに倒れ、しっぽを股の間にはさみ、うずくまるような姿勢になります。そんなときは、あいさつ自体も控えましょう

Q ワンちゃんをより満たしてあげる
遊び方はある？



遊びのなかに動きを止める「オフ」を盛り込むと、遊びにメリハリがつき、飽きずに夢中になって楽しんでくれます。興奮がエスカレートするのを防ぐこともでき、暮らしのなかでもワンちゃんがオンとオフをつけられるようになっていきます

A 「オフ」を取り入れ、
遊びにメリハリを
つけてあげましょう

自立心の強い日本犬やテリア種などではひとり遊びが好きなのもありますが、基本的には、ワンちゃんはオーナーさんと一緒に遊ぶのが大好きな動物です。愛犬の好きな遊びを知り、オンとオフのメリハリをつけて遊ぶと、より楽しませてあげられます。また、ワンちゃんは楽しさから歯止めがきかなくなる面があります。興奮させすぎないように注意して。

わたしの傾聴飼育 STORY

まるるのペースを大切に 比べず愛犬ができることを

M.Y.さん&まるる(オス・5歳/フレンチ・ブルドッグ)

「家では穏やかで、人が大好きな甘えん坊ですが、外だともで犬が変わってしまったように興奮スイッチが入ってしまうまるる。ももとの性格や、飼育放棄された元保護犬であることから経験も足りていないのかもしれませんが。ドッグトレーナーさんに相談したり、家に友達や身内を招き人とのふれあいの時間をつくったり、今は少しずつ初めての場所にも連れ出し経験を積ませています。理解することを大切に、犬の行動など飼い主も日々勉強しています」



藤井先生
より

「いろいろ工夫しながら暮らされていて素晴らしいです。フレンチ・ブルドッグは特徴的な顔の形により呼吸がしにくいことが多く、興奮しやすい傾向もあります。無理はさせず、これからまるるくんのペースを大切に、寄り添っていつてあげてくださいね」



まず、知っておきたい！

傾聴飼育のポイント *for cats*

POINT 1 | 習性や行動特性を学ぶ

ネコちゃんは本来、単独で行動する動物です。縄張り意識が強い、警戒心も強く、音やニオイなど刺激に敏感です。そのため、食事、飲水、排泄、睡眠、隠れ場所など、安心できる環境づくりが重要です。



高い場所や上下運動を好むため、キャットタワーの導入がオススメ。体を包み込むようなベッドがついているものだと、ネコちゃんにとって安眠の場になりやすいです。

POINT 2 | サインを読み取る

ネコちゃんは顔のパーツや体、声に感情が表れます。また、ニオイをつかった嗅覚的なコミュニケーションもネコちゃんにとって重要で、ほおずりや爪とぎ、おしっこをひっかけるなどのニオイづけも、ひとつのサインです。



頭やおをすりついたり爪をといだりするの、自分のニオイをつけ、家族のメンバーであることを確認したり安心を得ていたりするサインです。

POINT 3 | サインの意味を考えて接する

ネコちゃんが「ツンデレ」とよく言われる理由は、甘えたい気持ちと警戒心が同居していることにあります。何を、どこまで求めているかを見極めることはとても大切で、距離を詰め過ぎないこともポイントになります。



対応に困ったり離れてほしかったりすると、鼻をなめたり顔をそむけたりします。あえて距離を詰めるようなことはせず、ネコちゃん自身がとっている距離を大切にしましょう。

Q & A でよくわかる！

傾聴飼育 *for cats*



Q ネコちゃんを上手に満たしてあげるには？



顔をそむけ小さくゴロゴロ言っているようなときは「そっとおいて」、オーナーさんを見つめながら甘い声で鳴いてくるときは「甘えたい」のサインです。

A 何をどこまで求めているのかを読み取りましょう

本来単独で行動するネコちゃんは、自己主張が強い動物です。たとえば、自らオーナーさんのひざに乗ってきたネコちゃんであっても、なでると去ってしまうことがあるのは、ただひざに乗りたかっただけだから。何をどこまで求めているのか、個々のパーツの変化や体全体の動きを見て理解し接することで、ネコちゃんをより満足させてあげられます。

Q エスカレートする要求、どこまで応えていいかわからない。

「ムアオ」と泣き叫ぶような鳴き方は、オーナーさんを探していたり、たいくつしていたりするときのサインです。長い留守番などによって、ネコちゃんに満たされない気持ちがあるのであれば、まずは応えてあげることも必要です。



A わかりやすいルールづくりで
良好な関係を
築きましょう

一方的なコミュニケーションでは、ネコちゃんとオーナーさん双方の幸せは実現できません。1日中一緒にいるのにネコちゃんが鳴きながら常についてまわるような場合は、別々の部屋にいる時間を設けるなど、ネコちゃんがわかりやすいルールづくりを。「この時間はかまってもらえない」、と学習してくれます。知育おもちゃの導入もオススメです。

Q 遊びに誘っても
興味を示してくれないのはなぜ？



親愛や信頼を表す、ひっくりかえっておなかを見せる行動も、前脚を開いて獲物をつかまえるような姿勢のときは、「遊んでほしい!」のサインです

A ネコちゃんによって、
好きな遊びは
異なります

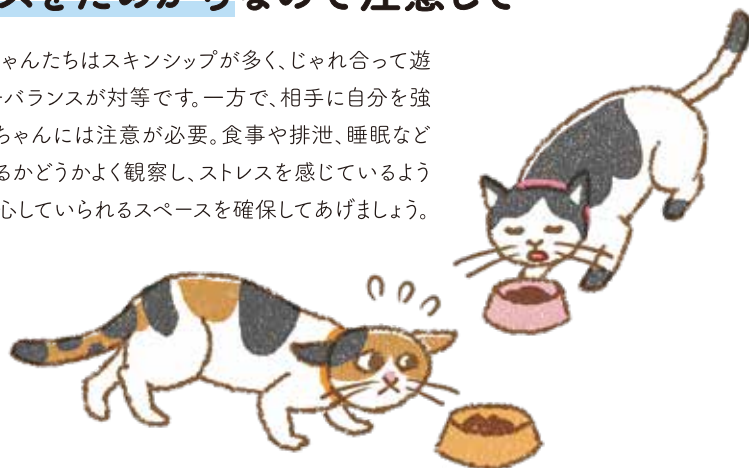
ネコちゃんにとって遊びとは、獲物を捕る「狩り」の行動で、遊びを通して本来持ち合わせた狩猟欲求を満たしてあげることは大切です。とはいえ、ネコちゃんによって好きな遊びはさまざま。いろいろなおもちゃや遊び方を試してみて、まずはそのコが好奇心や本能をそえられる遊びを見つけましょう。また、ネコちゃんが遊びたいタイミングで誘うことも大切です。

Q 複数頭飼育で
気をつけたいことは？

A 表に出せないネコちゃんほど、
ストレスをためがちなので注意して

関係が良好なネコちゃんたちはスキンシップが多く、じゃれ合って遊んでいるときもパワーバランスが対等です。一方で、相手に自分を強く主張できないネコちゃんには注意が必要。食事や排泄、睡眠などを安心してできているかどうかよく観察し、ストレスを感じているようであれば、1匹で安心していられるスペースを確保してあげましょう。

耳を後ろに引き、しっぽを下げ、姿勢を低くしていたら、「怖い」「安心できない」のサインです。複数頭飼育ではご飯を一緒に与えがちですが、ネコちゃんたちをよく観察し、判断しましょう



Q 完全室内飼育のネコちゃんに、
してあげられることは？



たいくつから同じ場所を鳴きながらウロウロ、トイレにストレスを感じ空中やトイレの縁を前脚でカキカキ…。不在時のネコちゃんの行動も、見守りカメラで観察を。ストレスサインが見られたら、暮らしや環境を見直していきましょう

A まずはネコちゃんの
観察日記をつけ、
よく知ることから

ネコちゃんの安全や公衆衛生のためにも、日本では完全室内飼育が推奨されています。一生のほとんどを家のなかで過ごすことになるネコちゃんのために、まずは観察日記をつけてみましょう。ネコちゃんのことを幸せにするのは、オーナーさんに他なりません。安心して過ごせているかどうか、ストレスを感じていないかなど、ネコちゃんのことをより深く理解できます。

わたしの傾聴飼育 STORY

猫たちと私の、幸せの ルーティンを大切にしています

N.I.さん&うどん、そば(ともにメス・4歳/スコティッシュフォールド)



「2匹は双子の姉妹で、うどんは妹のそばのことが大好きです。そばはひとり時間も好きですが、穏やかな性格でうどんを受け入れています。私自身は、夜寝る前に必ず遊んだり、箱好きな2匹のために段ボールを置いておいたり、猫たちの“好き”を大切にしながら、鳴き声やしぐさ、表情から気持ちを汲み取る“猫との会話”を心がけています。声をかけるとよく笑顔と感じられる表情を見せてくれます。おもしろいのが通じているのかな、とうれしくなります」

藤井先生
より

「猫たちと友好的な関係を築いていることが伝わります。血縁関係にある猫同士はうまくいきやすいですが、3〜4歳を過ぎると社会的に独立する年齢となります。そのため、これから2匹の関係に変化が見られることもあるかもしれません。引き続きよく観察していつか教えてください」

ワンちゃん・ネコちゃんの
オーナーさんのための



傾聴 飼育

けいちょうしいく

のススメ



「傾聴飼育推進委員会」は、
ペットとオーナーの“より幸せな暮らし”の実現のための、
傾聴飼育の考え方と実践方法の啓発を目的とした



がサポートする団体です。

監修 獣医師 獣医行動診療科認定医 伴侶動物行動カウンセラー 藤井仁美
発行 傾聴飼育推進委員会

【お問い合わせ】傾聴飼育推進委員会問い合わせ事務局

tel : 0120-51-2307 (受付時間 10:00～17:00 / 土日祝日・年末年始を除く)

e-mail : info@keichoshiiku.com

2025-A